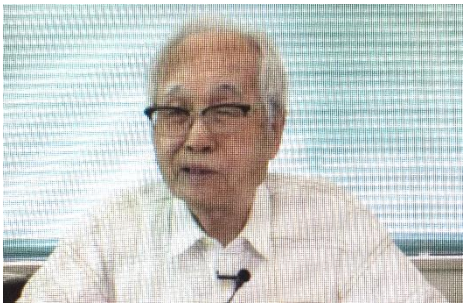
2022 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書

ふりがな		にんていえぬぴーおうほうじんはーもにーねっとみらい
団体名		認定ＮＰＯ法人ハーモニネット未来
代表者名		宇野　均惠
連絡先	住所	岡山県笠岡市笠岡 5909
	TEL	0865-63-4955／0865-61-4002
	E-mail	kodomo1@kcv.ne.jp
	URL	http://hamomira.or.jp/
設立年（西暦）		1987 年
助成活動名		寄りそう人、そだてるプロジェクト
助成額		1,500,000 円
活動内容	目的	新型コロナウイルス感染の長期化に伴い、子育て、虐待、ＤＶ被害等家庭内トラブル、貧困、障がい、人間関係等、生きていく上での悩みや困りごと等困難をかかえながら生活している人が増え、ここ 1～2 年で女性や若者の自殺者が急増している。 そのような社会の狭間で生きている状況下で人は、悩みに寄り添って話を聴くだけで解決に向かい、聴き手の言葉がけによって本人自ら気づくこともある。 本事業では、他者を尊重して寄り添うことのできる人の育成、聴き手のスキル向上をめざすための研修を企画し、身近な相談窓口の充実をめざす。 行政の相談窓口はハードルが高いと感じている人も多く、地域の中にも他者に寄り添える人を増やす取組みは現代社会において急務であり、難度の高い事例は早期解決のために、制度や専門機関につなげることも重要な支援であり、日常的に支援者間が柔軟に対応できる関係を構築していく必要性を実感している。 行政、企業、各種団体等、多様な主体による支援体制を構築し、他者の困りごとに、尊重して寄り添って聴く人を増やしていくことにより、安心して自分らしく生きていくことのできる地域社会をめざ

		す。
	内容	現在の日本社会において深刻な問題である「貧困」「ＤＶ被害」「障がい」等の正しい知識を身につけ、相談者の気持ちに寄りそいながら相談を受けるために、また早期解決のために必要な支援を行うために制度や専門機関へのつなぎ役としても活躍できる聴き手を増やすことにより、地域の中に身近な相談窓口を充実させていくための研修会を開催する。 1．他者に寄り添うための聴き方等の研修会開催： ・現代社会における現状把握のため ・現在の制度について ・他者を尊重し、寄り添うための聴き方 2．　身近な相談窓口の充実：人員配置・増員
	成果	■研修内容： ①日時：9 月 17 日（土）10：00～12：00 演題：「コロナ禍の子どもの貧困」 講師：幸重忠孝さん（ＮＰＯ法人子どもソーシャルワークセンター理事長） ②日時：9 月 17 日（土）13：00～15：00 演題：「女性と子どものエンパワメント～内なる力を信じて～」 講師：市場恵子さん（社会心理学講師・心理専門相談員・ 認定ＮＰＯ法人子どもシェルターモモ理事） ③日時：10 月 8 日（土）10：00～12：00 演題：コミュニケーションの難しさ 講師：山本昌知さん（精神科医） ④日時：10 月 8 日（土）13：00～15：00 演題：ＤＶ被害者に寄り添う～女性と子どもの人権の視点から～ 講師：河野和代さん（認定フェミニストカウンセラー・公認心理士・ ウイメンズカウンセリング徳島代表） ⑤日時：10 月 22 日（土）10：00～12：00 演題：かかわりの中で教えてもらったこと 講師：別府智子さん（元 ⑥日時：10 月 22 日（土）13：00～15：00 演題：(1)生活保護・貧困支援 講師：藤原良幸さん（岡山県障害福祉課統括副参事） 演題：ＤＶ被害者支援 講師：講師：島原富美さん（岡山県女性相談所女性相談課長） 演題：ひとり親支援 講師：草加忠彦さん（岡山県子ども家庭科統括参事） ⑦⑧日時：11 月 6 日（日）10：00～12：00・13：00～15：00 演題：気持ちに寄り添う話の聞き方①② 講師：藤坂圭子さん（心理面接室ＴＡＯ主宰・臨床心理士・ＳＣ） ⑨⑩日時：11 月 12 日（土）10：00～12：00・13：00～15：00 演題：(1)気持ちに寄り添う話の聞き方～自分自身の枠にきづく～ ：(2)気持ちに寄り添う話の聞き方～自分自身の枠を手放す～ 講師：山口修さん（「いのちの電話」スーパーバイザー・ＳＣ） ⑪⑫日時：12 月 3 日（土）10：00～12：00・13：00～15：00 演題：自分を生きる、人とともに生きる①② 講師：森口章さん（沢田の杖塾主宰・岡山いのちの電話副理事長・ＳＣ） ・社会で起きている課題の現実、正しい知識を知るために必要な講師選びに時間がかかったが、振り返りシートでも満足度も高く、「続編を希望しています」という感想があり、最大の成果であると感じている。 ・オンライン配信という始めての試みであったが、「遠方からの参加であったがオンライン配信だから受講できた」「オンデマンド配信のおかげで、興味のあるテーマを繰り返し、振り返りをしながら確認してみることが出来た」という感想もあり、オンライン配信の効果を改めて実感できた。 ・講座聴講を通して、寄りそうということの理解につながり、他者の立場になって聴くこと、自信がもてた等の感想もあり、目的がを達成できた。 ・講師の「いのち言葉」が心に残り、他者の話を聴くこと、本講座を通して、仕事に対し、今後の生き方の、また自分自身を知ることのきっかけになる企画となった。

		・「寄りそう人、そだてるプロジェクト」ふり返りシート　添付 file:///C:/Users/uno/Downloads/%E6%A9%8B%E6%9C%AC%E8%B2%A1%E5%9B%A3%E5%8A%A9%E6%88%90%E4%BA%8B%E6%A5%AD%20%E3%80%8C%E5%AF%84%E3%82%8A%E3%81%9D%E3%81%86%E4%BA%BA%E3%80%81%E3%81%9D%E3%81%A0%E3%81%A6%E3%82%8B%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E3%80%8D%20%E3%81%B5%E3%82%8A%E8%BF%94%E3%82%8A%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88%20(1).pdf
今後の課題と対応策		・長期化コロナ禍、諸物価高騰が続き、困難をかかえる家庭が増えてくるのではないかと懸念される。現在実施しているひとり親・生活困窮家庭のための「いのちまるごとプロジェクト」事業においても支援を必要としている人の急増、それに伴い相談件数も増えてきているのが現状である。 ・「いのちまるごとプロジェクト」事業実施から見えてきたことは、困りごと、貧困の背景は、収入が少ないということだけではなく、金銭管理ができない、借金、多重債務、ゴミ屋敷、離婚、血縁関係、虐待、ＤＶ被害・精神疾患、発達障がい、知的障害、愛着障がい等、困難が複雑に絡み合い、解決の糸口が見えないのが現状である。 ・社会の困りごと、他者の困りごとを「我がこと」と考え、「まるごと」引き受けていく文化をつくっていく。また、身近な人からの相談にのることのできるしくみ構築の必要性を実感し、今よりもっと関心をもち寄りそうことのできる人材を増やしていき、仲間を増やしていく取り組みに力を注いでいく。
写真の提出		https://hamomira.or.jp/yorisou_himituhimitu.html